

報道関係者各位

2021年12月16日 配信 No.2021-31
立命館アジア太平洋大学 (APU)

新たな教学棟と国際教育寮APハウスの建設へ
大分県産の杉を使用し、国内トップクラスの木造建築で
カーボンニュートラル社会実現を目指す

立命館アジア太平洋大学（所在：大分県別府市、学長：出口治明、APU）は、2023年4月の新学部開設と既存2学部の改革に伴って、より教育効果を高める新たな教学棟と国際教育寮APハウスを建設します。2021年12月より工事を開始し、2023年2月竣工予定です。

APUでは、APU2030ビジョン「APUで学んだ人たちが世界を変える」の実現のため、2021年～2030年の中期計画「チャレンジ・デザイン」を策定し、2021年度から取り組みを進めています。この度、新しく建設する教学棟と国際教育寮のAPハウスでは、APUの強みである多様な文化背景を持つ学生、教員間で交わされる活発なグループワークやプレゼンテーションをより行いやすい空間をつくり、更なる学びの質向上を実現していきます。また学外の企業・団体等の方々との交流が可能なスペースも設け、さらに進化させた「混ぜる教育」を展開していきます。

今後、学生が主体となって利用する空間については、学生の意見やアイデアを取り入れながら、よりよい教学棟とAPハウスの完成を目指します。



新しい教学棟外観イメージ 中心には木材を使用したスペースと、たくさんの光を取り込む明るく暖かい雰囲気のコモンズ

■新たな教学棟。より混ざり合って学ぶ場へと進化

新しい教学棟は、現在の図書館横に位置し、鉄骨造と木造を組み合わせた構造となっている地上3階建てとなります。中教室、馬蹄型教室、小教室等から多様な教室と、学生が滞在する様々な用途に使用できるスペース（スチューデント・コモンズ）や、教員の研究室、地域連携スペースなどを設置します。多文化協働や多様な学びのスタイルへの対応を意識した教室をデザインします。

教学棟を教材に。国内トップクラスの木造建築でカーボンニュートラル社会の実現に貢献

新たな教学棟の中央部分は木造建築となり、使用する木材のほぼ全てに大分県産の杉材を利用します。クリーンウッド法に準拠した合法的な木材と認められたもののみ、およそ400立方メートル以上使用して建築される教学棟は、国内の木造建築でもトップクラスの規模となります。またこれは国内大学では初となる、大規模3階建ての準耐火建築物となります。木造建築採用によって、APUとしてCO2削減に貢献し、カーボンニュートラル社会の実現にむけた取り組みを推進していきます。また、この教学棟は、2023年4月のサステナビリティ観光学部（仮称、設置構想中）新設を機に、持続可能な社会を実現する様々な人材育成を強化していくAPUの理念の象徴となります。教学棟そのものが、生きた教材となり、持続可能な社会実現に向けて、学生は授業や学生活動の中で木材利用の意義やメリット、ソーシャルインパクトを学びます。またそれを大学として情報発信していくという点で、この木造建築は大きな役割を果たしていきます。

■新たな国際教育寮APハウスで世界市民へと成長する仕組み

鉄筋コンクリート造の地上4階建となる新しい国際教育寮は、4階がエントランスとなり、教室等のあるエリアからブリッジでつながります。4階は、寮生だけでなく、在学生や企業・地域の方との交流も生まれる多目的なスペースを作ります。生活空間で静粛性・プライベートに配慮したセキュリティで区画されている寮室エリアと、交流空間で多様なスペースを配置した中央エリアに分かれます。

寮室はバリアフリールーム7室を含む全261室となります。既存のオンキャンパスのAPハウスと合わせて、合計1,571室の居室数となります。これまでAPハウスは新入生の入寮希望者全員を収容する居室数がありませんでしたが、このAPハウス新棟建設により新入生で入寮を希望する学生は、ほぼ全員が入居できるようになります。

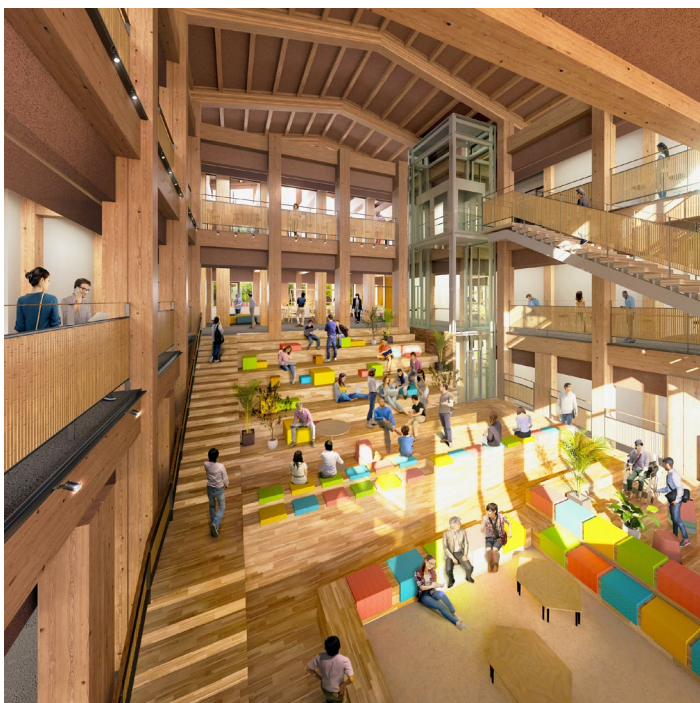
APハウスは「Residential Education & Residential Wellbeing」（学びの場としての寮、心身の健康維持のための寮）をコンセプトに、寮生活を通じた学生の学びと、心と身体の健全な成長を目指します。単に寝泊まりする場所としてではなく、学生が多様な価値観に出会い、ぶつかり合い、折り合いをつけながら、相手を許容することを学ぶ場として機能します。国籍や文化、習慣を超えて、協力・信頼関係を築いていくことができる、真の世界市民へと成長を遂げられるのが、このAPハウスの存在意義です。



新APハウスの外観イメージ 中央の交流を生むスペースとセキュリティーで区画されている安全安心な生活空間の共存を実現



新APハウス1階ダイニングイメージ 大人数で料理が可能な吹き抜けの大規模キッチンで、フロアを越えた交流を促進



■ 新・教学棟 建築概要

建築面積：2,802.02㎡
延床面積：6,495.95㎡
(うち木造対象面積：1,400㎡：中央部分)
構造：鉄骨造 (S造) +木造
階数：地上3階

■ 主要な機能

- ・ 中教室 (150名、グループワーク & スクール型) 2室
- ・ 中教室 (200名、グループワーク & スクール型) 2室
- ・ グループワーク特化型教室 (150名) 3室
- ・ 馬蹄型教室 (65名) 1室
- ・ 小教室 (32名) 9室
- ・ 教員研究室23室
- ・ 学生滞在スペース (スチューデント・commons)
- ・ 地域連携スペース1室

新しい教学棟 内部イメージ 大分県産の木材を使用した内装
空間活用方法は、今後学生のアイデアを取り入れる



新APハウス外観イメージ 学生がゆったりくつろぎ、集える庭

■ 新・国際教育寮 (APハウス) 建築概要

建築面積：1,918.23㎡
延床面積：6,156.78㎡
構造：鉄筋コンクリート造
階数：地上4階
寮室数：261室
シングルルームのみ
バリアフリールーム7室